

令和6年度第1回ウェルビーイング戦略プロジェクトチーム議事要旨

日時：令和6年10月2日(水) 13:30~15:30

場所：富山県庁5階共創スペースコクリ（一部オンライン）

議事 ウェルビーイング戦略のこれまでの取組みについて（資料1関係）

（事務局説明）

- ・ウェルビーイング指標の活用や施策設計図、ウェルビーイングの絵本、ロゲイニングなど、これまで実施してきた取組みを説明

（委員の主な意見等）

【中村座長】

- ・予算編成にウェルビーイングの向上効果を求めることは、他県や国レベルでも行われていない画期的な取組みであると思う。
- ・予算編成は前年度踏襲で行われることが多いが、富山県ではウェルビーイングを向上させる施策でなければ予算がつかないという設計をしていることを高く評価。
- ・この取組みをもっとメディアを通じて広報し、県民にも周知するべきではないか。県民は、税金の使い道に関心を持っており、ウェルビーイングの効果が見込める施策に予算を投じていることを知らせることも重要だと思う。

【石川委員】

- ・ウェルビーイングの観点で予算編成を行ったことは画期的。行政の説明責任という意味でも、このことが当たり前となって定着するとよい。
- ・ウェルビーイングの最新の潮流について3点報告。

1. ウェルビーイング概念の進化

ウェルビーイングは「幸せ」や「豊かさ」だけでなく、「人間の尊厳」や「尊重」を含む根源的な概念へと進化している。国際的にも、ポストSDGsのアジェンダとしてウェルビーイングが注目されており、人間の安全保障の観点から「尊厳ある人間生活」が重視されている。

2. 事業評価に Well-being を組み込む

JICAは2021年度から、事業評価にウェルビーイングの視点を加味しており、直接的な成果だけでなく、人々の生活や地域社会への波及効果も評価対象とし、ウェルビーイングの向上にどのように寄与したかを測定している。

3. 将来世代という視点

国連で「将来世代宣言」が採択され、現世代だけでなく将来世代のウェルビーイングも重視している。ポストSDGsのアジェンダとして、将来世代の幸福のための取組みが国際的に進むと見込まれる。

- ・以上を踏まえ、ウェルビーイングは「豊かさ」や「幸せ」だけでなく、「尊厳」や「尊重」を含む根本的な概念であり、将来世代も含めた広い視点で取り組む必要がある。

【土肥委員】

- ・ウェルビーイングを指標に置く取組みを高く評価するが、県庁内部や関係者以外の県民には、その取組みが伝わりにくいのではないかと思う。事業の名称に「ウェルビーイング」が含まれておらず、関連性が伝わりにくい。
- ・視覚的にウェルビーイングを感じられる表現方法を検討してほしい。県民が一目でウェルビーイング関連の事業と分かるような、共通のロゴやマークを作成してはどうか。

【松原委員】

- ・ウェルビーイングの認知度が50%近くに達しており、この3年のうちにとっても変わったと驚いた。
- ・組織や社会の変革には3段階（認知、伝達、体現）があり、次は人々がウェルビーイングを他者に伝えたいとなるような仕掛けが必要だと思う。ダンスや絵本などの取組みは良い例であり、そういった仕掛けが増えるとよいと思う。
- ・施策設計図の23のテーマについて、予算や取組みの強度に濃淡があるのか、それとも全て同じように推進しているのか。全てを把握するのは県民にとって大変であるため、重点を置くべき施策を明確にすることで、メッセージが伝わりやすくなるのではないかと思う。

【東出委員】

- ・施策設計図の作成はすばらしい。庁内職員の意識が大きく変わっていると感じる。
- ・経営者仲間の間でも「ウェルビーイング」という言葉の浸透が進んでいると肌感で感じる。
- ・県庁内向けに実務的な研修を実施し、職員のデータリテラシー向上やEBPM（エビデンスに基づく政策立案）の研修が行われていることは良いことだと思う。

【佐藤委員】

- ・今年度の取組みは、職員や関係者への腹落ちが中心であったのかと思う。
- ・ウェルビーイングのバッジなど視覚的なアピールがあると良い。
- ・絵本やロゲイニングなどの取組みは参加者が企画に参加するという形で受動的である。しかし、ウェルビーイングは自らの選択や行動（結婚、出産、移住、仕事、活動など）の中で生まれるものであり、個々のプレーヤーのウェルビーイング向上のための活動を応援する取組みが今度生まれてくるとよい。

議事 令和7年度以降の取組みの方向性について（資料2関係）

（事務局説明）

- ・令和7年度以降のウェルビーイング指標活用の浸透に向けた取組みや課題について説明

(委員の主な意見等)

【中村座長】

- ・ ウェルビーイングの成果を指標とした予算組みは、企業が実施している評価方法と近づいていると感じる。企業では予算に対する成果を約1年で評価するが、ウェルビーイング指標ではどの程度の期間でデータを蓄積し評価すべきか。
- ・ 現在はウェルビーイング指標の対象は県民だけであるが、関係人口の方と県内にいる人の差分を見ることができれば面白そうである。
- ・ 一般に若い層はシニア層よりもウェルビーイングの実感が高い傾向にあるが、若者の指標が3上がってシニア層が5上がったとき、ポイント幅が大きい方が効果があったという見方はできるのか。

【石川委員】

- ・ ウェルビーイングに影響する要因は、変わらない要因（遺伝子など）、その日の気分で変わる要因（天気、株価など）、ゆっくり変わる要因（1～5年で変化）に分かれる。ウェルビーイングの評価をどのくらいで振り返るかは、事業によって異なる。
- ・ ウェルビーイングの変化は要因によって異なるため、事業の性質に応じて評価期間を設定すべき。行政としては2年程度が適切ではないか。
- ・ ポイント幅の話があったが、長い時間軸で考えると、20歳の方が残りの人生ずっと1ポイント上がっていったほうが70歳の方が1ポイント上がるよりも長い目で見るとウェルビーイングの総量は増えるというように、どれだけウェルビーイングの総量が増えたのかというので行政評価をしていこうという動きもある。
- ・ 行政は公平性などビジネスの世界では拾えないような方々をしっかりと見極めて、一度に全ての人を相手にするのではなく、段階的に集中セグメントを決めていくのも一つのやり方ではないか。
- ・ 事業評価に関して、現在の富山県民だけでなく、関係人口や将来世代のウェルビーイングにも目を向け、多面的な評価を行うことの重要になってくるのではないかと思う。特に富山県は、昨年、G7の教育担当大臣会合でまさに将来世代のためにということをシンボリックに議論が行われた場でもあるので、教育担当大臣会合の一つのレガシーとして将来世代のウェルビーイングをしっかりと念頭に置いた様々な事業も行われるようになると良い。

【土肥委員】

- ・ ウェルビーイング指標のダッシュボードが今後公開されるならば、企業や県民が活用しやすいような評価期間の設定やデータ更新頻度を検討する必要がある。
- ・ ウェルビーイングの向上には、新たな行動を促すだけでなく、既存の業務負担を減らし、余裕のある時間を作る施策が重要である。例えば、子育て世代の書類手続きのデジタル化が進めば手間と時間が省け、余白の時間ができるとウェルビーイングの向上につながる。
- ・ 昨年度実施したウェルビダンスを単年度で終わらせることなく、せっかく参加した多くの方々のためにも継続的に盛り上げて行ってほしい。

【松原委員】

- ・ 1年に1度実施しているウェルビーイング県民意識調査に加え、各施策の実施前と後でどう変化したかを図れるような簡易なアンケートを導入し、短期的な効果を測定できれば良いのではないかと。
- ・ ウェルビーイング指標のダッシュボードについて、RESAS（内閣府・経済産業省）のようにデータを公開し、県民や大学生が活用できるようにすることで、ウェルビーイングへの関心を高めるアイデアコンテストを開催するとおもしろいのではないかと。ウェルビーイングを自分事化して考えられるようになると思う。

【佐藤委員】

- ・ まちづくりプロジェクトチームでは、まちづくりコンテストを開催した。選定プロジェクトには県負担で月1回程度のアドバイザー派遣を受けられるのだが、多数の応募があった。県民のウェルビーイングのどこが不足しているかを開示し、アイデアを募集するコンテストを開催してはどうか。
- ・ ウェルビーイング施策のロゴや動画などに統一感を持たせ、効果的な情報発信を行うために、アートディレクターを起用してはどうか。見せ方の専門家を立てることで、施策の浸透を図ることができるのではないかと。

【東出委員】

- ・ 今後の取組みにおいて県政すべての部門において、ウェルビーイング指標を活用した施策を検討するのは良い取組みである。

【中村座長】

- ・ 議論の内容をまとめると、
 1. 施策が幅広くなっていく中で、何のためにウェルビーイングに関する施策に取り組んでいるのか伝えることが重要であり、横串を指すような統一的なビジョンやブランディングが必要である。
 2. ウェルビーイングを指標とした予算編成の効果を適切に評価・検証し、その成果を明確にすることが重要である。
 3. 富山県の先進的な取組みを県民や他の地域にも広く伝えるべきであり、そのために予算を使えばよいのではないかと。